

背景
課題

「日本語を学ぶアジアの高校生たちに、10か月、日本で暮らせる機会を提供します。
規模は今後5年で1000人。」

平成29年6月5日に開催された第23回国際交流会議「アジアの未来」の安倍晋三総理大臣スピーチにおいて、日本語を学ぶアジアの高校生たちに、10か月間日本で暮らせる機会を、今後5年に1000人規模で提供すると発表。これを受け、平成30年度より「アジア高校生架け橋プロジェクト」を開始。

事業内容

- ▶ アジア諸国で日本語を学ぶ優秀な高校生を半年から10か月程度、日本全国の高校に招聘。
- ▶ 日本各地でホームステイや寮生活をしながら日本の高校生と共に学び合い、国際交流を深める。
- ▶ 休日には文化体験、地域交流、国内企業での体験学習や視察等も実施。
- ▶ 互いの国に精通したリーダー、架け橋となる人材の育成を目指す。

	第1期生 (平成30年度)	第2期生 (令和元年度)	第3期生 (令和2年度)	第4期生 (令和3年度)	第5期生 (令和4年度)
招聘人数	100名	200名	178名	249名	248名
招聘期間	6か月	8か月	5か月	6か月	10か月

- 実施団体：民間団体等（平成30年度～令和4年度：公益財団法人AFS日本協会）
- 事業期間：5年間
- 支援内容：招聘生の選考・研修に係る経費、渡航費、高校やホストファミリーでの受入に係る経費
招聘に伴う新型コロナウイルス感染症対策経費 等



アウトプット(活動目標)

- ・ 当該事業により、日本に招聘した高校生数

アウトカム(成果目標)

- ・ 日本人高校生の海外留学生数を6万人にする
(高校：3万人→6万人)
- ・ 将来留学したいと思う高校生を増加させる

インパクト(国民・社会への影響)

- ・ 将来の留学や社会生活を通じた、互いの国の架け橋となる人材の育成
- ・ 招聘生の出身国に対する理解度が高まることによる、異文化理解の醸成
- ・ 留学機運の醸成